令和5年度 静岡済生会看護専門学校 学校評価書

4:達成　3:概ね達成　2:達成には不十分　1:達成していない

	自己評価:3	学校関係者評価:4
Ⅰ 学校運営	・教育理念・目標に基づき、中長期目標、重点目標・方策を年度初めに職員に説明をしている。職員は各自の役割を意識し業務目標を設定して中間評価を経て、業務を遂行している。 ・教員不足により、専門性を十分活かした教育ができない領域は、研修を組み入れ、能力開発に繋げた。また、職員の急な退職・欠勤時には、皆で気持ちよく助け合う協力体制があった。職員の人事調整を図り、人材確保を進めていきたい。	・職員が中間評価し、年度内にできることは改善していくというPDCAサイクルを回しながら運営できている。 ・教員不足は大学も含め各学校でも苦慮しており、問題意識を持って全体で考えていかなければならない。校内での話し合いや研修派遣の仕組みができていることは評価したい。
	自己評価:3	**学校関係者評価:4**
Ⅱ 教育理念・教育目標・教育課程・教育活動	・新教育課程が開始され2年目の運用である。生活者を意識した授業内容・進度の設定、ICT化に伴いタブレットを使用した授業・電子教科書等、新たな取り組みを進めている。今年度から学習支援ソフトを取り入れて活用しているが、授業方法・内容によっては、課題も見えてきた。授業の目的を意識し更なる教授方法の改善・向上に努める必要がある。また、実施している新カリキュラムをタイムリーに評価し関連教科や次年度に繋げられるよう全教員が出席するカリキュラム運用会議を継続している。過去の学ばせ方に固執せず、教育目標を意識した柔軟な学習対応の検討を進めていきたい。 ・臨地実習は、施設・実習指導者と連携をとり、問題点に対しては早期に改善へ繋げられている。更に実習指導者の協力も得て、学びの効果的を上げていきたい。 ・評価基準の見直しは、評価をつけ終えた段階で速やかにカリキュラム運用会議で取り上げ、学習目標と評価の妥当性を再検討をしている。 ・専任教員養成講習会・訪問看護養成講習会の受講、施設へ3名の臨地研修を実施した。教員不足の補いとして、専門性と実践力を高められる研修を継続していきたい。	・タブレット教材の使用や学習支援ソフトの導入など、課題を確認しながら時代に合った教育活動を更に進めている。 ・学生アンケートは、すべての設問で前年度から向上した。中でも「学校は専門職としての職業観を育成する教育を行っている」という設問はほぼ満点回答であった。看護師は社会的要請を受けた専門職であるという自覚を持つことは入職後大切なものである。
	自己評価:4	**学校関係者評価:4**
Ⅲ 就職・卒業	・国家試験の合格率が100%を継続しており、卒業時の教育水準は維持できている。また、国家試験対策は1年次より計画的に実施しているが、学生の取り組み状況を捉え、合格を目指す事と共に専門職業人としての人間性が育まれる関わりを意識していきたい。 ・専門職業人として働く意欲が培われるように、業者を活用した病院説明の参加を促している。 ・卒業生にとってホームカミングディの参加は、リフレッシュができ就業意欲に繋がっている。また、病棟実習時に卒業生に声掛けをして状況把握・支援をしている。 ・病院側から卒業生の情報提供はあるが、卒業後の動向について把握していく必要がある。	・国家試験の合格は就職に直結しているので合格率100%を継続していることは、評価が高い。 ・卒業してからも看護師を続けていけるようにフォロー体制があることはありがたく、継続してもらいたい。
	自己評価:4	**学校関係者評価:4**
Ⅳ 学生生活支援	・給付金・奨学金に関して、学生に情報提供するとともに、証明書の発行等継続して支援を受けられるよう手続きに遺漏のないよう努めている。また、疾病に関する補償については、制度を案内・運用している。 ・スクールカウンセリングを受けた者は数名であるが、カウンセラー通信を3通/年発行し、時期に応じたこころのアドバイスを頂いている。　また、ストレスチェックの実施は、各自の心理状況を把握して生活の指針としている。 ・学生からの相談事に対して教員は、早期に対応して解決の糸口を見つけている。丁寧な対応と共に社会人としての学生職員間の距離の取り方も意識していきたい。	・かなりきめ細やかな学生支援ができている。スクールカウンセリングの活用や、学生からの相談事に対する教員のサポートも十分できている。

4:達成　3:概ね達成　2:達成には不十分　1:達成していない

	自己評価:3	学校関係者評価:4
Ⅴ 経営・管理・財政	・教育効果や学習への影響を意識して財源の管理・活用に努めているが、今後の将来構想をもって計画的に執行していく必要がある。 また、看護基礎教育の現状と課題について、運営委員会にて情報提供を行った。今後の学校運営の検討に繋げていきたい。 ・建物構造上、防犯管理が手薄になる状況であったが、年度末に監視カメラを設置し職員室で安全確認ができる対応を進めている。 ・学生から学校運営評価をとり、学生に回答している。今年度は全体に評価が上がっており、取り上げる課題が少なかったが、学生目線の意見を反映していきたい。	・監視カメラの設置のほか、施設の老朽化に伴う対応等少しずつ改善されている。 ・看護基礎教育の方向性の検討を、経営管理の視点とともに毎年継続していただきたい。少子化の中での学生数確保など社会的課題はあるが、今の段階で必要な取組はなされている。
	自己評価:3	**学校関係者評価:4**
Ⅵ 教育環境	・補助金を用いて視聴覚室の音響設備・映像機器の更新を行った。また、学習支援ソフトを用いた授業や連絡方法を進めている。ICTの活用が進んでいく中、問題点の吸い上げ・活用方法の見直しにも意識を向けていきたい。 ・校内が活用しやすいように、施錠を外し学生が自由に用いられる空間を広げた。更に活用できていない和室の整備を検討していきたい。施設が35年経過しているため、今後の施設の在り方も視野に入れ、整理整頓を基本に学習環境の整備を進めていきたい。 ・図書室の本のバーコード化が完了し本の配架も整えた。WiFi整備、病院の図書利用・医中誌の検索活用等、文献検索が拡大された。授業の中から活用頻度を上げていきたい。	・校内の設備更新、学生支援ソフト導入、図書室、WiFi整備、医中誌など、環境整備が進んでいる。今後、ITリテラシーの向上が大事になると思うので、学生に対する説明・指導をしてほしい。
	自己評価:3	**学校関係者評価:4**
Ⅶ 広報・地域との連携	・今年度は入学生41名の確保ができた。昨年度の入学生の大幅減少があり、危機感をもって学生募集に努力している。しかし、18歳人口の減少、大学志向の増加は切実であり、今年の志願者が100名に届かなかったのは過去にも例がない状況である。定員と学生の質を確保していくため、本校の専門学校としての特徴をどのように活かしていけるのかの検討を進めていきたい。 ・学校祭の一般者への広報や済生会フェア・クリスマス病棟訪問・清掃ボランティア等、感染状況を鑑みて施設への活動を進めることができた。更に学生の地域の活動へと広げていきたい。 ・ホームページのリニューアルと共にインスタグラムを開設した。高校生等の若者には学校の様子が届きやすくなったが、親世代や地域の方にも情報が届き、関心をもってもらえる改善が必要である。	・ホームページがリニューアルされて、インスタグラムとともにとても見やすくなった。自己評価の中に、「親世代や地域の方にも情報が届き、関心を持ってもらえる改善が必要」とあるが、全世代を対象とするのは難しいので、できる範囲でやってもらいたい。

＜学校関係者評価委員会委員長　総評＞

静岡済生会看護専門学校はきめ細かに教育されており、良い学校と感じた。

済生会には医療、介護、福祉の施設があり、看護専門学校はそこを繋げて教育することができるという恵まれた環境にある。他校にないこの魅力を上手に広報し学生確保に繋げるとともに、今必要な看護師を育てる学校として利点を生かした教育を継続されることを期待する。